

### 第3講 ペロポネソス戦争とその遺産

#### ペロポネソス戦争以降

アテナイとの戦争で海軍・在外部隊・在外官吏（ハルモステス）

ナウアルコス(ναύαρχος: 提督):

前 480 年初出 (Hdt. 8,2; 8,42)

ハルモステス (軍政官)・エピストレウス (副官)・陸上部隊も指揮

ペロポネソス戦争中に発展

王に匹敵 (Arist. Pol. 1271a)

R. Sealey, „Die spartanische Nauarchie “. *Klio* 58, 1976, 335-358.

ハルモステス (ἀρμοστής: 軍政官):

前 412 年初出 (Thuc. 8. 5. 2)

トラケー・イオニア・エーゲ海域・ボイオティア

守備隊の指揮

Victor Ehrenberg: Sparta (Geschichte). In: *Paulys Realencyclopädie der classischen Altertumswissenschaft (RE)*. Band III A,2, Stuttgart 1929, Sp. 1373 ff.

J. W. Park, „The Development of the second Spartan Empire (405-371)“, *JHS* 50, 1930, 37-79.

Charlotte Schubert: *Athen und Sparta in klassischer Zeit*. Ein Studienbuch. Metzler Verlag, Stuttgart/Weimar 2003.

クセナゴス (ξεναγός; xenagós): 同盟軍担当指揮官

(Xen. Ag. 2,10; Xen. Hell. 3,5,7; 4,2,19)

ペロポネソス戦争のときに現れる

アテナイによるシケリア遠征 (前 415 - 413 年) 失敗の衝撃

アテナイの海上支配は早急に崩壊すると判断された

- シケリアからの艦隊派遣の見込み
- ペルシアによる資金提供の見込み
- アテナイの同盟諸国から協力の申し出
- 艦隊の建造とエーゲ海域への派遣
- デケレイアに拠点形成
  - 常時アテナイに圧力
- エーゲ海域における勢力拡大
  - エウボイア・キオス・ミレトス・ビュザンティオンなどの獲得
  - レスボス・サモス・セストス（アテナイの拠点）への圧力
  - エーゲ海域における政治状況に関与
    - 親アテナイ派と反アテナイ派、民衆派と寡頭派、富裕者層と民衆層の対立
    - 親アテナイ派・民主政を弾圧・反アテナイ派と連携・寡頭政を支持
- ペルシアとの提携
  - 豊富な資金提供の約束
  - 小アジアのギリシア諸都市に対するペルシアの宗主権の承認
  - ティッサフェルネスとアルキビアデスに翻弄
- アギス王による政策転換（前 411 年）
  - 海上からの補給を遮断する必要性を痛感
  - アジアへ転換
- リュサンドロス
  - 前 407 年：ナウアルコス
    - 小キュロスと友好関係樹立
  - 前 407 年：ノティオンの海戦に勝利
    - アルキビアデスの失脚・亡命
  - カッリクラティダスと対立
  - 前 406 年：アルギヌサイの海戦で敗北
  - アラコスの副官として派遣
  - 前 405 年：アイゴスポタモイの海戦で勝利・アテナイの海軍力

壊滅・アテナイを海上より封鎖  
前 404 年：アテナイの降伏  
サモスの降伏

#### 帝国の形成

圧倒的な海軍力を独占  
新同盟諸国にデカルキア体制とハルモステス・駐留部隊（アテナイや小アジアのギリシア諸都市）

#### 同盟諸国の寄付金

膨大な戦利品→資金の蓄積（2000T）  
海外の親スパルタ派との関係→政治指導者にとって政治的影響力の基盤：リュサンドロス・アゲシラオス  
ペルシア王子小キュロスとの友好関係  
リュサンドロスとアギス王・パウサニアス王の対立

#### 【史料】

文献史料：

クセノフォン、『ギリシア史』（ペロポネソス戦争末期～マンティネアの戦い）

同、『アゲシラオス』（伝記文学の最初）

同、『ラケダイモン人の国制』

『ヘレニカ・オクシュリンキア』

エフォロス、断片 71～85

リュシアス、『第 2 弁論：葬送演説 コリントス人たちの救援に赴ける者たちに寄せる』

同、『第 12 弁論：「三十人」の一人エラステネスに対してリュシアスみづからが述べたる』他

イソクラテス、『祝祭演説（パネギュリコス）』

同、『パンアテナイコス』他

デモステネス、

ポリュビオス、『歴史』  
ディオドロス、『歴史叢書』  
プルタルコス、「リュサンドロス」、「アゲシラオス」

碑文資料：

P. J. Rhodes & R. Osborne, *Greek Historical Inscriptions 404- 323 BC*, Oxford, 2003.  
M. N. Tod, *A Selection of Greek Historical Inscriptions*, Vol.II, Oxford, 1948.

【研究文献】

概説：

P. Cartledge, *Spartan Reflections*, Berkley, 2001.  
Do, *Sparta and Lakonia: A regional History 1300 to 362 BC.*, London & New York, 2002second.  
Do, *The Spartans: The World of the Warrior-Heroes of Ancient Greece*, New York, 2004.  
W. G. Forrest, *A History of Sparta 950-192 B.C.*, London, 1968.  
J. T. Hooker, *The ancient Spartans*, London, Toronto & Melbourne, 1980.  
G. L. Huxley, *Early Sparta*, Shannon, 1962.  
A. H. M. Jones, *Sparta*, Oxford, 1968.  
L. Thomsen, *Sparta: Verfassungs- und Sozialgeschichte einer Griechischen Polis*, Stuttgart & Weimar, 2003.  
K-W. Welwei, *Sparta: Aufstieg und Niedergang einer antiken Großmacht*, Stuttgart, 2004.

研究書：

P. Cartledge, *Agesilaos and the Crisis of Sparta*, Baltimore, 1987.  
E. David, *Sparta between Empire and Revolution (404- 243 B. C.):*

*Internal Problems and their Impact on Contemporary Greek Consciousness*, Salem & New York, 1986.

J. Dillery, *Xenophon and the History of his Times*, London & New York, 1995.

Th. J. Figueira(ed.), *Spartan Society*, Swansea, 2004.

Ch. D. Hamilton, *Agesilaos and the Failure of Spartan Hegemony*, Ithaca & London, 1991.

註釈書：

I. A. F. Bruce, *An Historical Commentary on the Hellenica Oxyrhynchia*, Cambridge, 1967.

D. R. Shipley, *A Commentary on Plutarch's Life of Agesilaos: Response to Sources in the Presentation of Character*, Oxford, 1997.

P. J. Stylianou, *A Historical Commentary on Diodorus Siculus Book 15*, Oxford, 1998.

関連領域：

P. Briant, *Histoire de l' Empire perse*, Paris, 1996.

R. J. Buck, *Boiotia and the Boiotian League, 423-371 B. C.*, Edmonton, 1994.

J. Buckler, *The Theban Hegemony, 371- 362 BC.*, Cambridge, Massachusetts & London, 1980.

J. Buckler & H. Beck, *Central Greece and the Politics of Power in the Fourth Century BC*, Cambridge, 2008.

W. Cavanach, J. Crouwel, R. W. V. Catling & G. Shipley, *Continuity and Change in a Greek Rural Landscape: The Laconia Survey*, Vol. I, London, 2002.; Vol. II, London, 1996.

W. Cavanach, ch. Mee & P. James, *The Laconia Rural Sites Project*, London, 2005.

M. H. Hansen, *Polis: An Introduction to the ancient Greek City-State*, Oxford & New York, 2006.

- Ch. P. Jones, *Kinship Diplomacy in the ancient World*, Cambridge, Massachusetts & London, 1999.
- D. Konstan, *Friendship in the classical World*, Cambridge, 1997.
- B. S. Strauss, *Athens after the Peloponnesian War*, London & Sydney, 1986.

邦文研究：

- 清永昭次、「スパルタの都市国家」、『歴史教育』13巻4号、1965年
- 新村祐一郎、『古代スパルタ史研究 - 古典古代への道』、岩波、2000年。
- 中井義明、『古代ギリシア史における帝国と都市 - ペルシア・アテナイ・スパルタ - 』、ミネルヴァ書房、2005年。
- 古山正人、「ヒュポメイオネス考 -スパルタ社会の変容の一側面」 『新潟史学』17、1984年。
- 同、「モタケス、トロフィモイ、スパルティアタイのノトイ -スパルタの社会集団」『歴史学研究』597、1-18頁、1989年。
- 同、「日本におけるスパルタ史研究--戦後の研究と現状」『国学院大学紀要』41、73-100頁、2003年。
- 同、「ペリオイコイ研究の現状」、『國學院大学紀要』44巻、163-189頁、2006年。
- W・G・フォレスト（丹藤浩二 訳）、『スパルタ史：紀元前九五〇 - 一九二年』、溪水社、1990年。

参考：

- アントニー・D・スミス（巢山靖司・高城和義 訳）、『ネイションとエスニシティ：歴史社会学的考察』、名古屋大学出版会、1999年。
- A・ネグリ／M・ハート（水嶋 一憲・酒井 隆史・浜 邦彦・吉田俊実 訳）、『<帝国> - グローバル化の世界秩序とマルチチュードの可能性』、以文社、2003年。